

紫友会 まち歩き 第47回

永青文庫から東洋文庫へ ミュージアムを巡るまち歩き

今回は比較的マニアックなミュージアム3館を訪れます。国宝の刀一伝えられた武士の心を展示する永青文庫から始まり、建築ミュージアムを経て、孔子から浮世絵までを蒐集した岩崎コレクションの東洋文庫ミュージアムをゆっくりと説明付で見学します。コースは全長約4kmと短めですが、坂道が多く結構タフです。

日時：2014年12月13日(土)
集合時間：13時30分
集合場所：地下鉄有楽町線江戸川橋駅
出口1a 江戸川公園入り口
参加者：26名参加
案内人：大熊敏正(016C)
懇親会：トラットリア・イタリア文京
(グリーンコート文京内)

<まち歩き>：

■まち歩き行程

江戸川公園→新江戸川公園→永青文庫→文庫別館→東京カテドラル聖母マリア大聖堂→建築ミュージアム→東洋文庫ミュージアム→懇親会

参加者：26名

歩数：今回の歩数：14,000歩

<懇親会>：

参加者：28名

<スタート>

それではスタートです。写真を見ながら楽しんでください。

① 江戸川公園から

13:30に江戸川橋駅そばの江戸川公園入り口で集合。高速道路の下でしばし来ない

人を待つ。手帳への記入で、日付を間違えた人のドタキャンがあった。



神田川に沿って歩き始める。ここは以前まち歩きで見学したところ。まだ残っている紅葉を見ながら歩いていく。



関口芭蕉庵の門内には芭蕉が緑の顔を出している。ここは、松尾芭蕉が二度目に江戸に入った後に請け負った神田上水の

改修工事の際に1677年（延宝5年）から1680年（延宝8年）までの4年間、当地付近にあった「竜隠庵」と呼ばれた水番屋に住んだといわれているのが関口芭蕉庵の始まりだそうです。

水神神社の巨大な銀杏は迫力があります。



② 新江戸川公園

肥後細川家下屋敷後の新江戸川公園に入り、公園内の池の周りをまわって行く。支柱上の一点から放射状に下がる縄の描く傘型の美しい雪吊りがいくつかある。支柱上部の飾り（わらぼっち）があるのも新江戸川公園の特徴だそうです。



③ 永青文庫

永青文庫を見学。団体での入場。



永青文庫は、日本・東洋の古美術を中心とした美術館。旧熊本藩主細川家伝来の美術品、歴史資料や、16代当主細川護立の収集品などを収蔵し、展示、研究を行っている。建物は細川侯爵邸の事務棟を文庫に転用したもので、旧本館は隣接する和敬塾にあり、春と秋に数日間公開されるのみ。



運営主体は公益財団法人永青文庫。理事長は18代当主の細川護熙。

割引は70歳以上とのことでほとんどの人が若くて(?)対象外となってしまった。素晴らしい展示だ。国宝の刀剣が4振りも展示されていた。ここは4階から順次下りながらの見学。



展示室は写真撮影禁止。外見はよいだろうと幾つか記念に撮影。



④ 文庫別館

100 円追加の利用券で、別館でお茶を楽しむことができた。肥後のお菓子のかせいた(加勢以多) が一つ付いている。しばし談笑。



別館のティールームからは、武蔵野の面影を残す細川邸の庭園を眺められる。庭に立派な紅葉もあった。



しいのみ（巨大な「スダジイ」という樹種があちこちにある）を拾って、生で食べる人もいた。



昔、しいのみを集め、フライパンで炒めて食べたことを思い出す。



⑤ 東京カテドラル聖母マリア大聖堂

しばらく歩く。紅葉も鑑賞。



東京カテドラル聖母マリア大聖堂を見学。築50年だという。内部は自由に入ることができた。

写真も撮っていたが、あとで館内は撮影禁止だったことがわかった。

このため、内部の写真は割愛。



パイプオルガンの荘厳な響きの中(クリスマス(?)の練習をしていたようだ)、敬虔な態度でクリスマス気分を味わいながら、しばし見学。

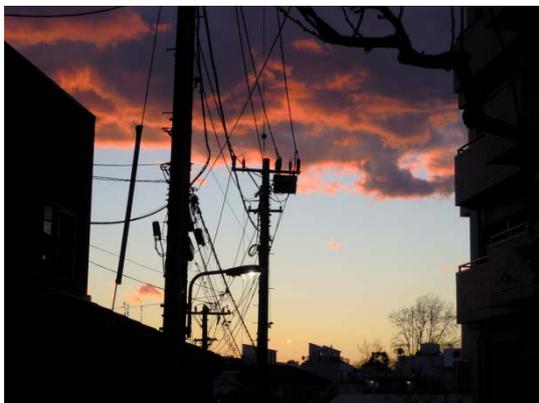
クリスマスの飾りつけもある。紙製のようだ。

ここのピエタ (PIETA)は、バチカンのサン・ピエトロ大聖堂にあるミケランジェロの傑作（高さ 175 cm、重さ 2600 kg）と同じに作成された物が寄贈されたと書いてある。

音羽に向けて独協中高の前の急な長い坂（鉄砲坂という）を下っていく。



上り、下りの道を何度か進んで、小石川植物園に向かう。既に薄暗くなる。



⑥ 建築ミュージアム

小石川植物園の端にある建築ミュージアムを見学（入場無料）。

赤い建物は 1876 年(明治 9 年)に建築された「旧 東京医学校」だったもので、植物園へは移築されたもの。

以前は東京大学総合研究博物館小石川分館だったが、2013 年 12 月に建築ミュージアムとしてリニューアルされた。



庭園も建物側から見学。



小石川植物園の借景は、目障りな高層ビルがまったく目立たなく、都心では希にみる絶景ポイント。本来なら屋外のテラスで椅子に座ってゆったり眺められるが、今は、軒の天井板が落ちそうなので立ち入り禁止、誠に残念。



⑦ 東洋文庫ミュージアム

そこからまた坂を上り、小石川高校の前を過ぎ、東洋文庫に入館。小石川同窓生は会員証を発行してもらってからとなるが、無料で入場できる。ただし発行条件は、同窓会費用を払っていること。

1階フロアー。



ラオス民族衣装の係員の案内が始まる。



江戸初期の大きな地図を説明してくれた。
六義園は柳沢吉保邸として枠外に付け足し表示。



2階に行くとそこはモリソン書庫で部屋一杯が本、本である。一括購入が条件で岩崎氏が現在価格70億円で購入したと説明。



「源氏物語」、



「日本書紀」、



貴重な「徒然草(嵯峨本)」、「東方見聞録」、



シーボルトの「日本植物誌」、

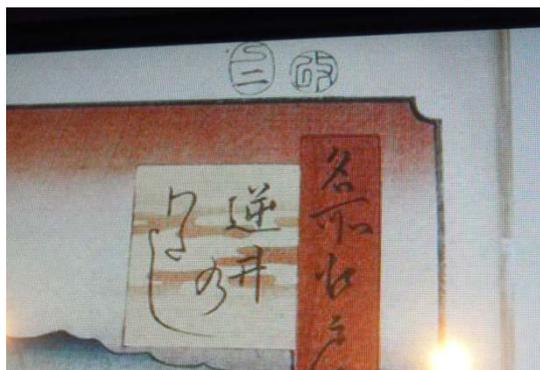


アーネスト・サトウの旧蔵書「NIPPON」



等が陳列されている。

浮世絵の極めの印を参考に説明してくれた。よく刷り上がったものにこの極め印を押したという。



説明の後、次は浮世絵コーナー。撮影禁止、18歳未満の入場禁止。なぜでしょう。それは春画がいくつも展示されているためでした。

カラーの浮世絵は当初なかったが、海外との交易で色の原料が入ってきて彩色が当たり前になったという。

⑧ 懇親会

少し戻って、トラットリア「イタリア」の2階の個室で忘年会開始。乾杯後にさっそく集金開始。飲み放題で、料理は7種類出てくることになっている。



前菜盛り合わせ、タイのカルパッチョ、ピザ2種、グリーンなサラダ、スパゲティ等、さらに500円追加でデザートとコーヒーを頼む。



途中、恒例の2015年の予定を紹介。いつものように楽しく懇親しました。それでは2015年のまち歩きを楽しみに。

以上